

各交差点混雑状況の評価は、現況交通量ピーク時間の交通量に、再開発事業に伴い発生集中するピーク時交通量を加算して行います。

・ 交差点が最も混雑する時間（ピーク時間）の設定

交差点の混雑具合は、1日の交通量ではなく最も混雑する時間帯（ピーク時間）の交通量で検討します。

この理由は、交通量が最も多い時間帯で交通処理が可能であれば、交通量が少ない時間帯においても交通処理が可能と考えられるためです。なお、交差点の混雑具合の分析には交差点需要率というものを用います。これは、ピーク時間あたりの交通量から算出します。

算出フロー

①発生集中交通量

施設を利用する車両の台数。

施設の種類・規模に応じて大規模小売店舗立地法、大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省監修）に準じて算出しています。

→今回分析での発生交通量：平日（2,837台/日、ピーク325台/時）休日（2,241台/日、ピーク301台/時）



②現況交通量 (ピーク1時間)

2020年6月の調査結果に、平成27年道路交通センサス観測交通量等を基に、コロナ禍による影響補正を行った現況交通量からピーク時間を設定しています。

→今回分析でのピーク時間：平日 10時台、休日 12時台



③交差点需要率 の算出

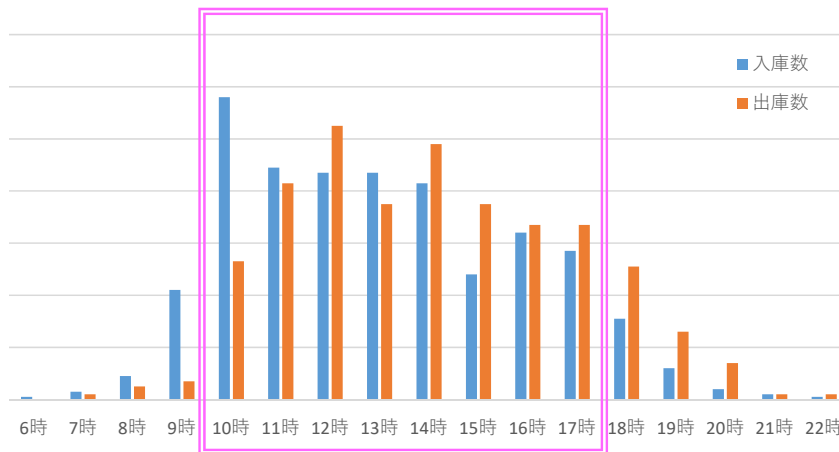
交差点交通処理の評価に用いる手法。現況交通量に発生集中交通量を加算した交通状況で評価を行います。「平面交差の計画と設計 基礎編 - 計画・設計・交通信号制御の手引 -」に準じて算出しています。

→今回分析の結果、交差点需要率が0.8を上回る交差点はありません（最大：平日0.663、休日0.641）。

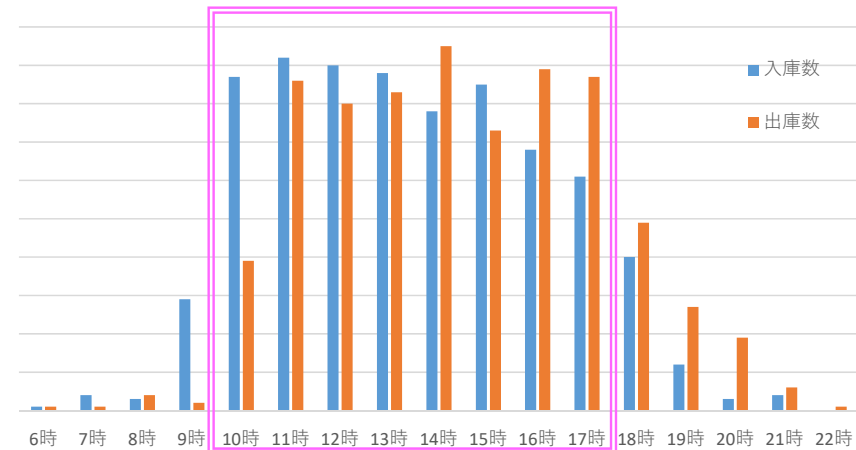
①発生集中交通量

* 発生交通…施設から出発する交通
集中交通…施設へ到着する交通

- 再開発により周辺の交差点に影響を与えるのは、施設を利用する車両（発生集中交通量）となります。
- 発生集中交通量は、基本的には施設が開店している時間に発生します。
⇒想定される再開発の施設開店時間：9時～21時
- 枚方市駅周辺の駐車場利用実態をみると10時～17時の間で多く利用されていることから、再開発の施設駐車場のピーク時間帯としては、**10時～17時の中から設定**します。



▲ 【例】枚方市駅周辺の駐車場の入出庫状況（平日）

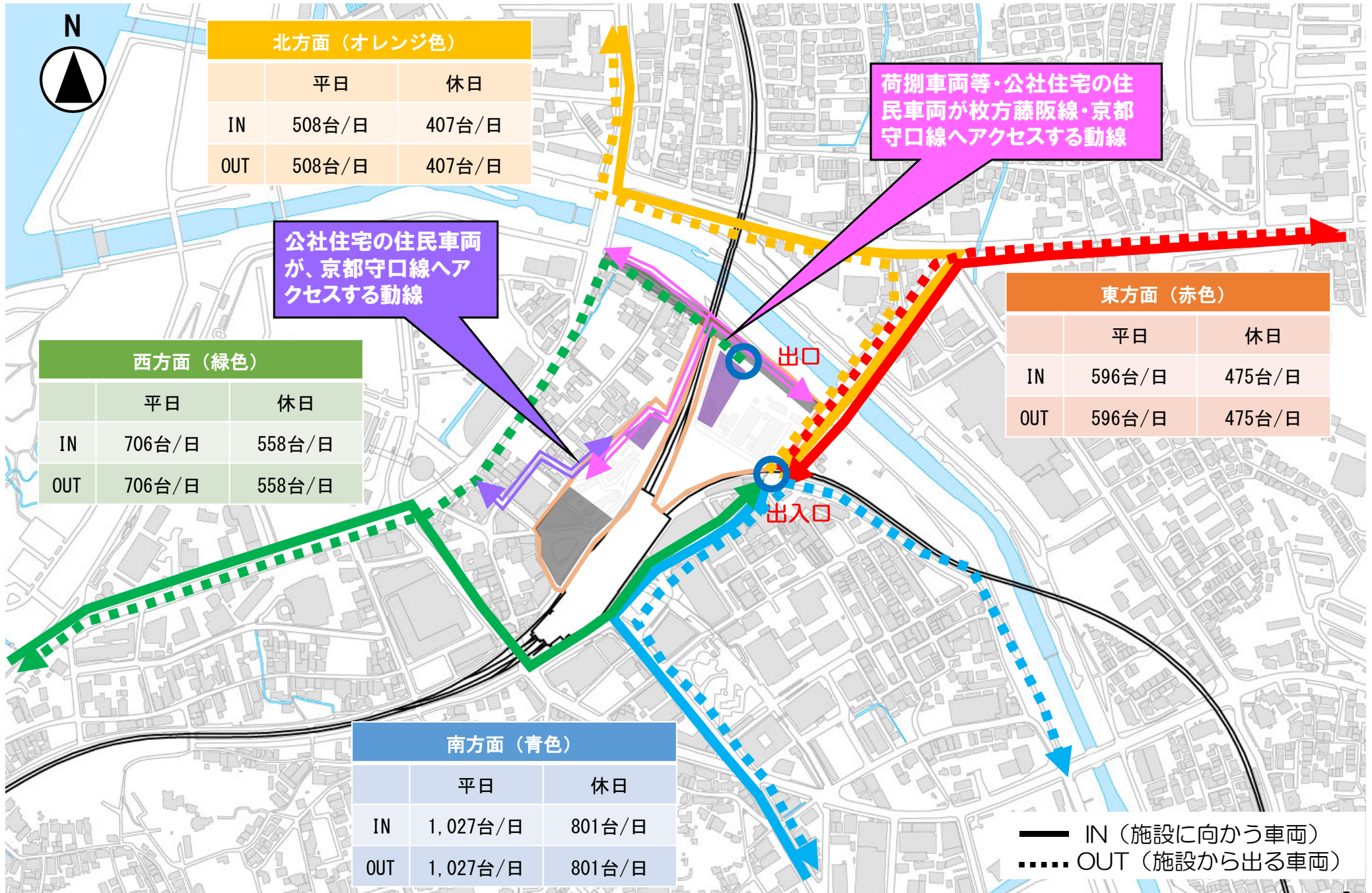


▲ 【例】枚方市駅周辺の駐車場の入出庫状況（休日）

再開発による、発生集中交通量のピークが発生する時間帯を10時～17時の間で設定します。なお、発生交通量の台数は下表のとおりです。

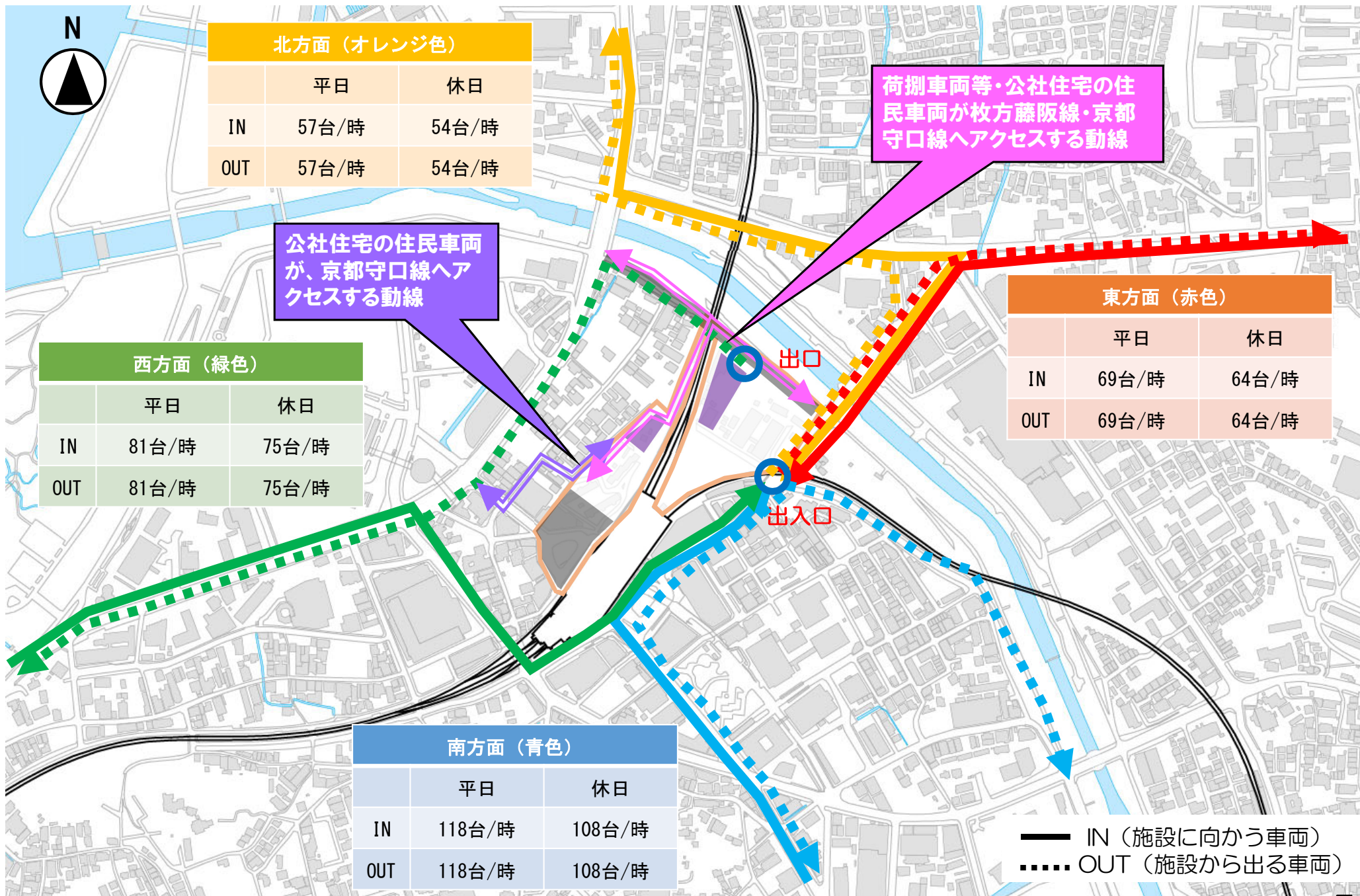
発生交通量

	1日	ピーク時
平日	2, 837台	325台
休日	2, 241台	301台



※再開発事業に伴い新たに増加する交通量のみの数値です

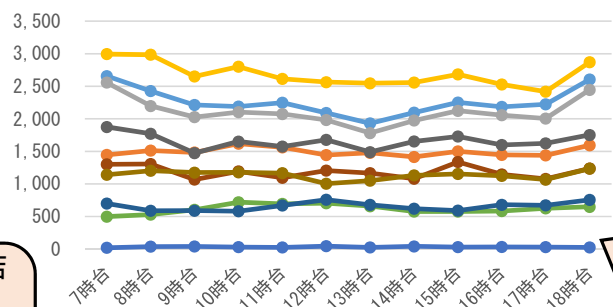
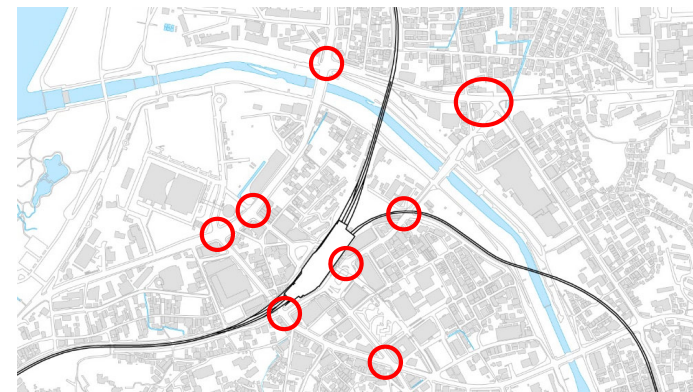
ピーク時間は、再開発施設の事務所や店舗が稼働しだす午前9時以降で周辺の交通量が最も多い時間を設定しています



※再開発事業に伴い新たに増加する交通量のみの数値です

②現況交通量 (ピーク1時間)

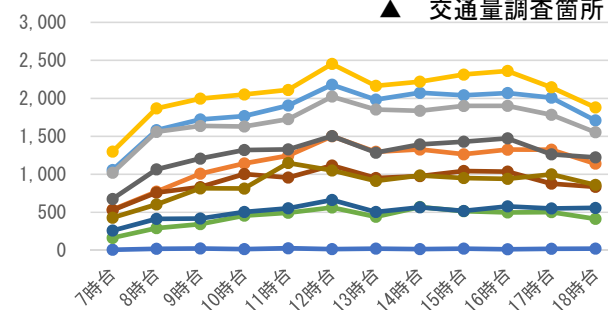
- 現況交通量は、最も交通量が多い時間をピーク時間と設定します。
- ピーク時間の設定は、
 - 駐車場施設利用が多い時間帯 (10時~17時) の中で
 - エリアで交通量が最も多い時間帯の交通状況の 時間帯とします。



交差点によって
ピーク時間が
異なる

エリア内の交通を
検討するには、共
通のピーク時間設
定が必要

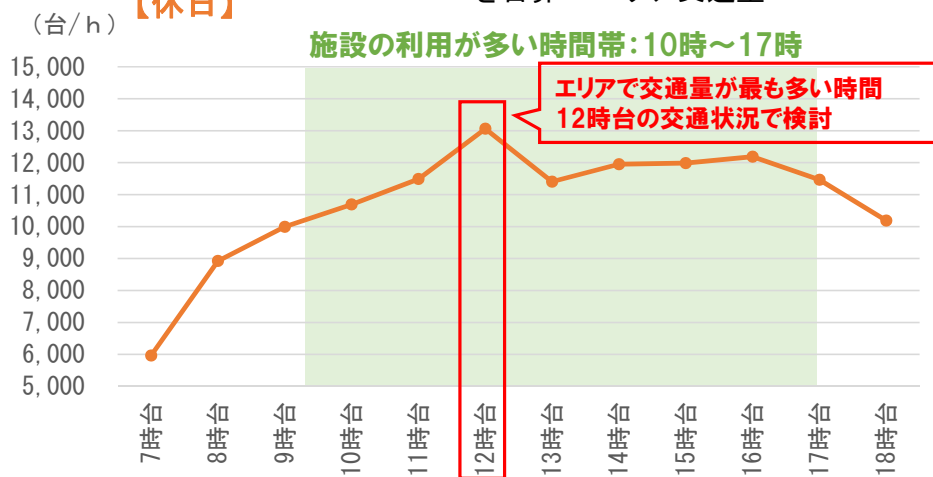
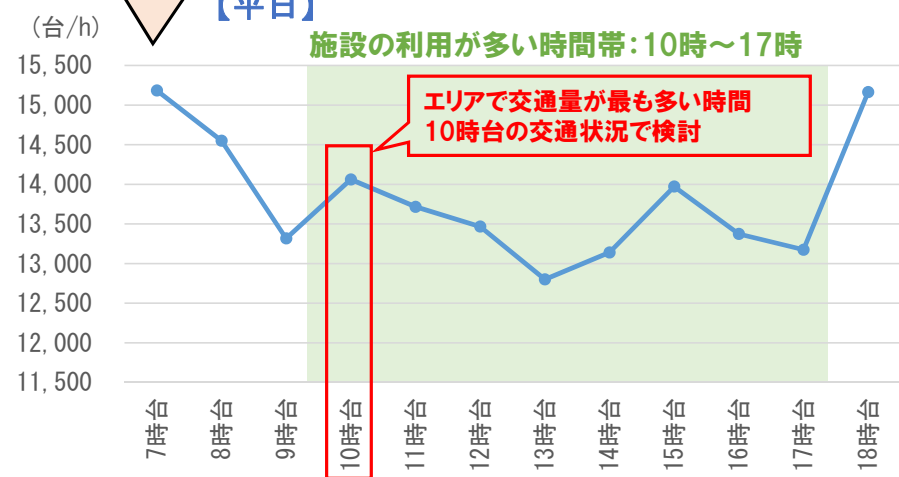
エリア全体の交通
量が多い時間帯を
ピークとする



7時台など施設開店
前の時間帯では、
交通量が多いが、
再開発に伴う影響
は少ない

▲ 上記の各交差点の交通量
を合算⇒エリア交通量

▲ 上記の各交差点の交通量
を合算⇒エリア交通量



▲ 時間帯別各交差点交通量の合計 (平日)

▲ 時間帯別各交差点交通量の合計 (休日)

発生集中交通量と現況交通量が多い平日10時台 休日12時台をピーク時間と設定します。 6

③交差点需要率 の算出

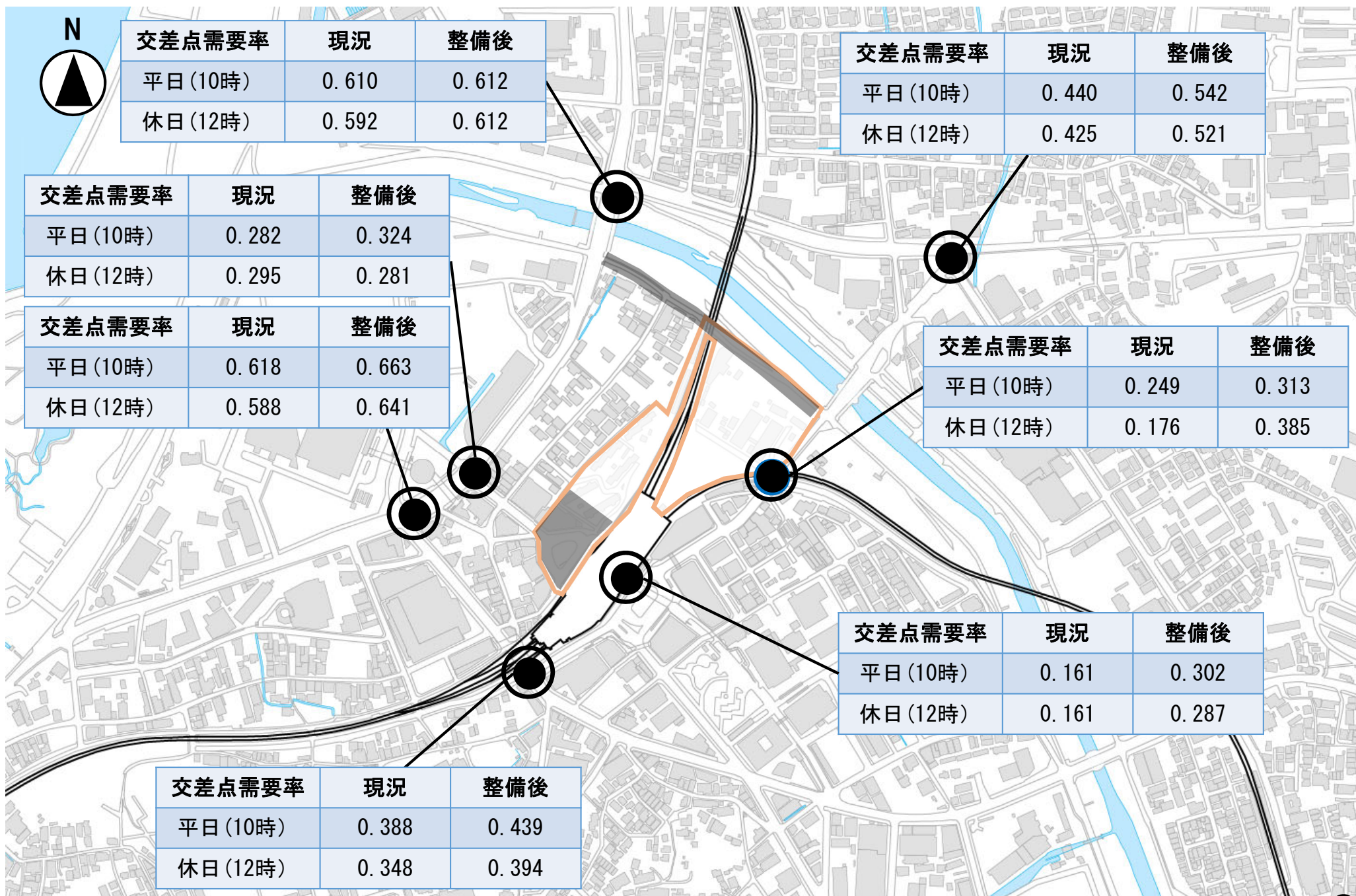
- 交差点需要率とは
交差点交通処理（混雑具合）の評価に用いる手法です。
交差点において、設定された信号制御方式に基づき、1時間で実際に流入する交通量をさばくために必要な、『青』時間の比率を用います。値が高くなるほど交差点の混雑が見込まれ、一般的に0.8 くらいで部分的に渋滞が発生し、処理できなくなり始め混雑が発生します。
- ①発生集中交通量と②現況交通量を合わせた交通状況（施設利用が多い時間帯で、現況交通量が多いピーク時間：平日10時台、休日12時台）で交差点ごとに交差点需要率を算出します。

検討結果

- 現況交通量が多く、施設利用車両が多く予測される平日10時台、休日12時台において、各交差点で交差点需要率が0.8以下となるため、交差点交通処理が可能といえます
- →検討結果は次ページ参照

平日、休日のピーク時間とも、施設からの発生集中交通量により交差点が処理できなくなるということはありません。

ピーク時間は、再開発施設の事務所や店舗が稼働しだす午前9時以降で周辺の交通量が最も多い時間を設定しています



※現在の交通量と、再開発事業に伴い新たに増加する交通量を加えた数値です

※交差点の需要率とは、交差点の交通量に対する処理能力指標です。値が0.8以上で処理できないとされています。